

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田小学校
(平成31年1月21日作成)

1 学校教育目標 進んで学ぶ子 やさしい子 たくましい子	
2 重点目標・努力目標 ○教職員一人ひとりの熱意・誠意・創意を結集し、笑顔かがやく学校づくりを推進する。 ・学習指導の充実 ・豊かな心の育成 ・健康でたくましい児童の育成 ・生徒指導、教育相談、特別支援教育の充実 ・安全・安心で開かれた学校づくり ・幼保小中を一貫した教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果○全教職員が協働したチーム力の向上 ○校内研修体制の充実による授業改善と基礎学力の向上 ○いじめ・不登校等の解消に向けた児童一人ひとりを大切にする生徒指導体制の充実 課題●あいさつ等基本的生活習慣の改善 ●15年間を見通した教育課程の工夫改善 ●家庭・地域と連携した開かれた学校づくり

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針を繰り返し明示し、教職員の共通理解を図り、目指す学校づくりを推進した。 ○行事や会議等の在り方を検討し、効果的・機能的に運営した。 ●適材・適所であり、よりバランスのとれた校務分掌組織編成を工夫すること。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○年度当初から国語科を重点教科とした研究の方向性を全体で共有し、計画的・組織的に実践した。 ○両新田中学校区をはじめ、他校の研究授業を積極的に参観し、授業改善につなげた。 ●教師一人ひとりの強みを生かして指導力を高める人材育成を進めること。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○危機管理マニュアルを見直し、安全管理体制を整備したことにより、事故の未然防止や迅速かつ適切な対応を行った。 ○計画的に学校施設や通学路について安全点検を行い児童の安全確保を行った。 ●家庭・地域と密に連携し、保健・安全指導の徹底を図ること。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○情報管理に係る校内規定について全体で共通理解し、各自が危機意識を高めて適正な管理を行った。 ●新たに整備されたICT機器の有効活用を図ること。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だよりや学校HPの内容を改善し、教育方針や教育活動について積極的に発信を行った。 ○PTA活動を計画的に行いながら、随時見直しして工夫改善を行った。 ●地域の人材を発掘し活用していくこと。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校区で目指す子ども像の実現に向けた具体的取組について幼保小中の教職員が共通理解を深め実践することができた。 ●教育課程の編成について、さらに充実させていくこと。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○授業時数を適切に確保し、学校や児童の実態を踏まえ教育計画の工夫改善を行った。 ○教育目標や方針を全体で共通理解し協働して実践した。 ●日課表・週時程を適切に見直していく。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○校内研修の成果を生かし、各教科で児童の主体的な活動を大切にした授業を行った。 ○全学年の算数における複数指導体制を整え基礎学力の向上を図った。 ●年間指導計画を工夫改善していく。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○道徳の校内研修を計画的に行い、特別の教科道徳としての指導や評価の在り方について全体で理解を深め実践した。 ●家庭・地域と連携しながら学校生活全体を通じて児童の道徳実践力を高めていく。
	④外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	B	○A L Tを活用し、外国語における児童のコミュニケーション能力をはぐくむことができた。 ●外国語・外国語活動の全面実施に向けた年間指導計画の充実を図る。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	B	○いじめの根絶やあいさつ運動等の児童会活動やペア学年での交流の機会の確保や教室配置の工夫を行った。 ●児童の主体的活動の充実を図る。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○自校の実態を踏まえ年間指導計画を見直し、児童がより体験的・探求的な課題解決を行えるよう改善した。 ●地域施設・人材等を発掘・活用を進める。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○児童理解や問題行動の早期発見と情報共有に努め、組織的に積極的な生徒指導を行うことができた。 ●学校・家庭・地域が連携し児童一人ひとりを大切にしたい教育をさらに推進する。
	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○中学校と連携することにより、児童が自分の将来について考える機会をもつことができた。 ●外部人材の活用など児童に啓発的経験を味わわせる指導内容を工夫する。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○個別の指導計画に基づき指導方法や通常学級との交流の在り方の改善に努めた。 ●校内委員会等で配慮を要する児童一人ひとりのニーズを把握し、家庭や関連機関と連携して個別の支援の充実を図る。
	⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○司書教諭を中心に学校司書や図書ボランティアにより魅力ある図書館が整備され、読書への児童の関心・意欲が高まった。 ●読書活動の取組を意図的・積極的に進め、児童の読書量をさらに増やしていく。
	⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・I C T機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○I C T機器やデジタル教材が整備され、各学年の授業において活用が促進された。 ●児童が身近な危険を理解し安全に過ごすための情報モラル教育を徹底する。
	⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○日常的に人権についての知的理解を深め、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる児童の育成を図った。 ●各教科と関連させた全体計画の工夫改善と校内研修の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	・基礎学力の定着 ・児童が学ぶ楽しさを味わえる授業実践 ・学習習慣の定着	B	○校内研修を中心に、全体で共通理解を図り、全校で統一した取組を進めた。 ○昨年度まで算数科で研究してきたことに加え、今年度から国語科を重点教科として、両小スタンダードの確立や朝学習（チャレンジタイムの工夫）、ノート指導の統一、各学力・学習状況調査の事項の結果分析等を行ったことにより指導の質が高まり、全体的に児童の基礎学力が向上しつつある。 ●調査結果等において課題がみられる「話すこと・聞くこと」について、言語活動の充実や対話的な学びを通し、児童の学力を着実に高めていく。 ●家庭と連携して家庭学習の習慣化を図り、
	体力向上	・体育的諸活動の充実 ・主体的に運動する児童の育成	B	○体育授業の充実や体育朝会における取組の工夫を行った。 ○新体力テストにおいて、「A+B+C」の児童の割合が83.7%となり、昨年度を6.2%上回った。 ●課題がみられる「反復横跳び」「上体起こし」について重点的に取り組んでいくこと。
	学校応援団の取組	・児童の見守り活動の充実 ・読書活動の充実 ・学習支援の充実	B	○安全・安心応援団会議や通学路点検を実施し、組織的・日常的に児童の見守り活動が行われた。 ○朝の読み聞かせや図書館等の環境整備が充実したことにより児童の読書活動が豊かなものになった。 ●地域と連携し、学校応援団の人材を発掘し計画的に有効活用を図る。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学校教育目標の実現を目指し、全教職員が協働して教育活動を推進したことにより、児童が全体的に明るく元気で落ち着いて学校生活を送ることができている。

全学年で算数科における少人数指導やT T指導など指導体制の工夫改善を図り、個に応じたきめ細かな指導を行っている。また、校内研修体制が充実し、年度当初から日々の授業改善が着実に行われ、児童の基礎学力が向上しつつある。

生徒指導については、教職員の共通理解のもと組織的・意図的な指導を日常的に行い、いじめ防止や不登校の解消などにつながっている。引き続き家庭及び関係機関との連携を密にしながら児童一人ひとりを大切にされた適切な指導を行っていく。

学校公開の在り方や学校だより・学校HPの内容を見直し、学校からの積極的な発信に努め、学校関係者評価においても肯定的回答率が95.5%と昨年度より高い評価を得ることができた。これからも児童や家庭・地域の願いや思いに応えることができる信頼される学校づくりを、学校のチーム力をさらに高めながら推進していく。

6 次年度の改善策

- ・両新田中学校区で目指す子ども像の実現に向けた教育課程の編成や全体研修会等の在り方を工夫改善し、全校・全園の教職員が、幼保小中を一貫した教育推進のための具体の取組を着実に実践していく。
- ・指導方法の工夫改善や両新田中学校区で統一した学習規律の徹底など、学力向上に向けた取組をさらに充実させ、児童の基礎学力やそれらを活用する力を伸ばしていく。
- ・あいさつ運動、早寝早起き朝ごはんカード、携帯・スマホルールなど基本的生活習慣の改善を図るための取組を家庭・地域と連携して積極的に進めていく。
- ・両新田中学校区3つの実行（明るいあいさつ・しっかり清掃・守ろう時間）について指導を徹底する。
- ・教職員一人ひとりの強みを生かし、よさが発揮される校内指導体制の充実を図る。